



— 寄 稿 —

北海道地方会発足に向けて

鈴木 幸太郎
北海道地方会 会長

北海道における核医学検査の実情は日本アイソトープ協会の実態調査でも分かるようにその検査件数、検査施設数、検査機器数などをみても全国平均を上回るものが多く核医学の盛んな地域といえるし、核医学に専従している放射線技師も少なくなく、研究発表や各種核医学関連研究会も多く開催され技師・医師一体となって活発に活動しています。しかし、学会活動に関しては日本放射線技術学会や日本核医学会への参加は多く見受けられるが日本核医学技術学会での活動は余り活発とは言えず会員数も二十数名とお世辞にも多いとは言えない現状です。一部の技師は放射線技術学会、核医学会、核医学技術学会の3学会に所属して精力的に活動している者もありますが、現実には各学会の全国大会に出席するには関東・関西から遠隔に位置する北海道という土地柄もあるが日程や参加費用の面などから全てに参加出来ない事情も理解できると思います。

一方、放射線検査技術の分野でも専門化が進み2005年には放射線治療専門技師、MR 専門技師の認定機構などが立ち上げられ高度な学問・技術に裏付けられた医療技術の提供が求められてきている。核医学の分野でも昨年第1回の専門技師認定試験が行われ多くの認定技師が誕生したのは記憶に新しい。北海道からも数名の専門技師が誕生したが核医学が比較的盛んな割には専門技師数が少なく、その数を増やしてゆくことの必要性は核医学を担当している我々技師自信が一番良く知っていることでもあります。今後経験を積んだ若い技師が認定試験の受験資格を得るために『点数』を集めなければならないのですが前述のように全国学会への参加には色々な意味での困難さも伴うことは否めません。このような状況の中で全国の会員である数人の技師から日本核医学技術学会北海道地方会の設立を望む声が多くなり地方会発足を考えざるを得ないようになってきました。しかし、我々がどれだけ動くに依るのですが、少ない現会員数や新たに入会を募ってどこまで会員が増えるか或いはどのような活動がなど不安な要素もありなかなか発会に踏み切れない状況がしばらく続きましたが、少し前にある研究会で日本核医学専門技師認定機構理事長の増田一孝先生とお話をする機会があり、地方の技師にも『点数』が取り易いような配慮やこれからの核医学専門技師の方向性などについて色々お伺いしました。そのお話を伺って意を強くし、学会・研究会などを通じて北海道地方の技師の資質向上を図り、一人でも多く専門技師になってもらうべく地方会を造る方向で数人が発起人となり発足に関する申請を行い、過日、本部役員皆様のお陰をもちまして地方会が承認されました。

現在は申請時の仮の役員で設立総会の準備を進めていますが、少人数で何もかも手探りでことを進めているような状況なので全国の色々な人からご意見を頂き参考にしてより良い地方会を目指して頑張りたいと思っておりますので宜しくご指導お願い致します。